

教科別授業改善推進プラン（国語科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・書き方の例やパターンを提示したことで、伝えたいことを明確にし筋道を立てながら文章を書くことができるようになってきた。
- ・昨年度に引き続き、本を借りる機会を増やし読書量が増えたことで、物語文については、叙述をもとに内容を読み取ることができた。

(2) 課題

- ・文章構成や段落を意識して、文章の内容を捉える力が弱いため、筆者の考えや挙げている事例に着目し、内容の構成を意識して読む必要がある。
- ・漢字を書いたり、読んだりする力には個人差が見られ、習った漢字を覚えて活用する力が身に付いていない児童も多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(観点別経年比較)

評価の記号は、平均正答率が目標値を「△…上回っている」「▼…下回っている」「≒…ほぼ同等」

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	観点別 ・知識・技能 ≒ ・思考・判断・表現 △ ・主体的に学習に取り組む態度 △		
第5学年	観点別 ・知識・技能 ▼ ・思考・判断・表現 ▼ ・主体的に学習に取り組む態度 ▼	観点別 ・知識・技能 ≒ ・思考・判断・表現 ≒ ・主体的に学習に取り組む態度 ▼ (第4学年時)	
第6学年	観点別 ・知識・技能 △ ・思考・判断・表現 △ ・主体的に学習に取り組む態度 △	観点別 ・知識・技能 △ ・思考・判断・表現 △ ・主体的に学習に取り組む態度 △ (第5学年時)	観点別 ・話す聞く △ ・漢字 読み△書き△ ・書く △ ・読む △ ・言葉の学習 ▼ (第4学年時)

(2)分析

4 年	全体の正答率は、区の目標値を上回るものが多いが下回るものもある。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、目標値より 10 ポイント以上上回っている。 ●漢字の読みについては、目標値より 10 ポイント以上下回り、身についていない児童が多い。 ●資料から読み取った事実を書く問題では、半分以上の児童が誤答で身に付いていない児童が多い。
5 年	全体の正答率は、区の目標値を下回るものが多い。 ○自分の考えや理由を書く問題では、目標値より 10 ポイント以上上回っている。 ●連用修飾語や漢字を書く問題では目標値より 10 ポイント以上下回り、理解が不十分である。 ●説明文の段落相互の関係を捉える問題では、目標値より 13 ポイント下回り、文章の構成を捉える力が身に付いていない児童が多い。
6 年	全体の正答率は、区の目標値を上回るものが多い。説明文の読み取りではほぼ平均だった。 ○漢字の読み書きや言葉の学習の問題では、全て目標値より上回っている。 ○報告する文章を書く問題では、10 ポイント以上上回っている。 ●物語の登場人物の心情を読み取る問題では、12 ポイント下回っている。物語の内容を読み取る力が身に付いていない児童が多い。

3 重点課題

1 年	・「は・を・へ」などの助詞や促音・長音・拗音を、正しく表記すること。 ・平仮名・片仮名・漢字の字形や書き順を正しく理解すること。 ・話を正しく聞き取ることや、自分の伝えたい内容が伝わるように話すこと。 ・自分の伝えたい内容を文章で表現すること。 ・正しく音読し、文章の大体の内容を捉えること。
2 年	・既習漢字の「読み・書き」を定着すること。学習した漢字を使って文章を書くこと。 ・習った漢字やカタカナ、助詞、かぎを文の中で正しく使うこと。 ・対話等において、話題に沿って自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて感想や質問を返したりすること。 ・正しく音読し、文章の大体の内容を捉えること。
3 年	・既習漢字の「読み・書き」を定着すること。学習した漢字を使って文章を書くこと。 ・語彙を増やすこと。 ・大事なことを落とさずに話を聞き取ること。 ・説明的な文章については、筆者の意図などを考えて読むこと。
4 年	・漢字を正しく読めるようにすること。 ・説明的文章では、資料や文章から事実を読み取り、筆者の主張をを考えて内容を読み取ること。 ・自分の考えと理由を書く際には、どのような内容で書くか見通しをもち、課題に応じて文章を書けるようにすること。
5 年	・漢字の読み書きが定着すること。 ・説明的な文章の段落相互の関係を読み取り、文章の構造を捉えること。 ・自分の考えについて筋道を立てながら、相手に伝わるように書くこと。
6 年	・文学的文章の読み取りを丁寧に行う。 ・叙述に基づいて情景や登場人物の気持ちを捉えていく。 ・普段から、読書の時間を設定し、物語文を読む経験を積む。

4 授業改善策

1 年	・平仮名、片仮名、漢字において、字形や書き順を意識させた上で、反復練習や個別指導を行い、正しく理解させる。 ・作文指導等を通して、正しい表記の仕方を身に付ける。 ・スピーチや話し合い活動を通して、質問や感想を言う機会を設け、話の大事なところを聞き取るようにさせる。 ・文章を読む際、時間的な順序や場面の様子を捉えること。
2 年	・話し合いでは話題を捉えさせたり、自分の考えやその理由を明確にもたせたりする。 ・友達の考えを聞いた時の感想や質問の話型を示す。また良い考えだと思った友達の意見から学んだことを紹介する機会を作る。 ・全教科の学習を通して、書く活動を行う際は、声かけをして、漢字を使おうとする意識を高める。 ・授業や家庭学習で音読をさせ、読む習慣を定着させるようにする。また、本の読み聞かせや本の紹介を通して、児童にも「読みたい」という意欲をもたせる。
3 年	・音読の練習や、学習した言葉、漢字を使って文章を書くことを継続する。 ・新出漢字の練習や小テストを定期的に行い、反復練習をさせる。 ・辞書を使って言葉の意味を調べさせたり、言葉集めをさせたりして語彙を増やす。 ・説明的な文章では、問いと答えに着目し、筆者の意図を捉えさせる。 ・話を聞くことを意識させるために、全校朝会の校長先生や看護当番の話の聞き取りテストを月に 1 回程度実施する。
4 年	・漢字は小テストや宿題、朝学習を通して確実に定着させる。 ・自分の考えを書くときには、書く前に課題を確認し、教師が例などを提示した後に書く活動を行うことで、見通しをもってから取り組ませる。 ・説明的な文章では、段落ごとに要旨をまとめたり、文章の構成を考えさせたりすることで、文章全体の内容を捉えさせる。
5 年	・新出漢字の練習や宿題を通して、反復練習していく。小テストも定期的に行い、理解が定着していない漢字については再度練習し、理解を確実にする。 ・説明的な文章では、それぞれの段落ごとの意味を読んで考え、全体を通してどのように構成されているか捉える学習を継続する。 ・自分の考えを書く際には目的や課題を明確にし、相手に伝える意識をもって取り組ませることで、論理的に表現できるようにする。
6 年	・説明文の学習では、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見をもっているのかに着目させる。そのために、事実と意見とを色を変えてサイドラインを引かせたり、文末表現に気付かせたりする。 ・文学的文章の学習では、情景や登場人物の気持ちや情景を場面ごとに抑え、話し合いをしたり意見を発表したりしながら丁寧に取り組んでいく。
全学年 共通	・「書くって楽しいね」を活用し、言葉のきまりや文章の書き方を身に付けさせる。 ・学校図書館を活用し、読書学習司書と連携した授業を行う。 読書目標に挑戦させ、読みの力や語彙を身に付けさせる。 (低学年 120 冊、中学年 100 冊、高学年 80 冊または 10000 ページ) ・漢字の学習について小テストや朝学習、宿題を通し、反復練習を行うことで定着を図る。